

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/20

ユーロ中心の相場が続く

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	FOMCは景気判断が鍵に 予想レンジ: 79.00 ~ 82.00 円	2-4
カナダ/円	➡	株・資源価格睨み 予想レンジ: 80.80 ~ 83.50 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 6/13~17の主な推移

※4時間足



6/13 Monday	実需筋のドル買いなどにより、仲値公示後にドル/円は80.69円まで上昇(①)。しかし、その後はジリ安に。NY市場で格付け会社S&Pがギリシャを格下げしたことで金融市場全般でリスク回避ムードが広がると、米国債利回りが低下。これを受けてドル/円は80.11円まで値を下げた。
6/14 Tuesday	アジア市場から欧州市場にかけては80円台前半で推移。しかし、21時30分に発表された米5月生産者物価指数が前年比+7.3%(市場予想:+6.8%)、米5月小売売上高が前月比-0.2%(同:-0.5%)と市場予想を上回る結果になり、米国債利回りが大幅に上昇すると、ドル/円は80.63円まで上昇した(②)。ただし、80.60円台では売り圧力も強く、引けにかけては上げ幅を縮小した。
6/15 Wednesday	夕方、前日のNYで報じられた「ギリシャ国債の債務期限延長により、ユーロ圏諸国は最高200億ユーロの追加負担の必要がある」とのニュースを蒸し返す形で対ユーロでドル高が進むと、ドル/円でもドル高が進行。さらに、21時30分に発表された米5月消費者物価指数が前年比+3.6%(同:+3.4%)を上回ると、ドル/円は瞬間的に81.06円の高値を付けた(③)。ただ、同時発表された米6月ニューヨーク連銀製造業景気指数が-7.79と予想(12.00)に反して弱い結果となったことから、ドル/円はすぐに上げ幅を縮小。米国債利回りの低下も相まって、一時80.59円まで値を下げた。しかし、その後はギリシャの政局混迷を嫌気したユーロ売り・ドル買いに連れる形でドル/円でもドル買い優勢となり、81.00円前後まで値を戻した。
6/16 Thursday	13時30分過ぎ、オランダ中銀のウェリンク総裁が「欧州救済基金を2倍の1兆5000億ユーロにすべき」との見解を示しユーロ/円が下げるとドル/円も連れて下落。さらに夕方、欧州勢によるまとまった円売り・ドル買いが持ち込まれると、一時80.48円まで急落した(④)。その後、21時30分発表の米新規失業保険申請件数(結果:41.4万件、予想:42.0万件)、米5月住宅着工件数(結果:56.0万件、予想:54.5万件)、米5月建設許可件数(結果:61.2万件、予想:55.7万件)、米第1四半期経常収支(結果:1193億ドルの赤字、予想:1300億ドルの赤字)と、軒並み市場予想よりも良好な結果となり、ドル/円は80.94円まで反発。しかし、23時発表の米6月フィラデルフィア連銀景況指数が-7.7と予想(7.0)を大きく下回ると、ドル/円は再び80円台半ばまで弱含んだ。
6/17 Friday	夕方、NYダウ平均先物や原油先物の下落を背景にクロス円が下げると、ドル/円も連れて下落。さらに、独仏首脳会談にてギリシャに対する追加的な金融支援において欧州中銀(ECB)との対立を避け、完全に自発的な形で民間投資家の関与を求めるとの考えを確認すると、ギリシャ支援策が進展するとの期待から、ユーロ高・ドル安が進行。これに連れる形でドル/円でもドル安が大きく進んだ。その上、22時55分発表の米6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が71.8と予想(74.0)より弱い結果になるとドル売りはさらに進み、ドル/円はNY市場終了間際に80.00円の安値を付けた(⑤)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

ここ最近の為替相場の関心の中心はギリシャの債務問題に絡んだユーロの動きになっており、先週のドル/円はその都度ユーロ/ドルの動きに連れる場面とユーロ/円の動きに連れる場面が混在する、難しい展開となった。ギリシャ支援に絡む問題は引き続き関係各国で協議中(20日にユーロ圏財務相会合、23-24日に欧州連合(EU)首脳会合の予定)で、今週も要人発言などがユーロ相場の手掛かり材料となってくる見通しだ。ドル/円は先週と同様、ユーロ/ドルやユーロ/円のどちらかにその都度連れて動くと思われる。主体的に一方に大きく可能性はそれほど高くはないと考えられる。

ただ、今週の米国では、21日に5月中古住宅販売件数、22日に米連邦公開市場委員会(FOMC)の政策金利発表、23日に週次の新規失業保険申請件数および5月新築住宅販売件数、24日に5月耐久財受注、第1四半期国内総生産(GDP)・確報値などの発表が予定されており、これらの結果はドル/円相場でも直接的に材料視される見通しだ。中でも注目はFOMCになるだろう。ポイントは、FOMCの景気判断だ。米国の量的緩和第2弾は6月末で終了の予定だが、FOMCは前回の声明の中で「入手した情報に照らし合わせて保有証券の規模と構成を定期的に見直し、雇用最大化と物価安定に最善となるよう、これらの保有証券を必要に応じて調整する用意を整えている」と、必要に応じてバランスシートの拡大・縮小をする意志があることを示している。つまり、この景気判断が前回よりも悪化すれば、今後の金融政策が拡大方向(=ドル安要因)に動く可能性がある一方、改善していれば金融政策が引き締め方向(=ドル高要因)動く可能性があると言えるだろう。ちなみに、前回の景気判断は「景気回復が緩やかなペースで継続し、労働市場の全体状況は徐々に改善している」「家計支出、企業の設備・ソフトウェアへの投資は引き続き拡大している」「非住宅用構造物への投資は依然として弱く、住宅セクターは引き続き低迷している」「インフレはここ数カ月加速したものの、長期的なインフレ期待は引き続き安定しており、基調インフレを示す指標は依然として抑制されている」というもの。今回の景気判断がこれを比べて楽観・悲観のどちらに傾くか、見ていきたい。

(ジェルベズ)

(予想レンジ: 79.00~82.00円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

テクニカル分析

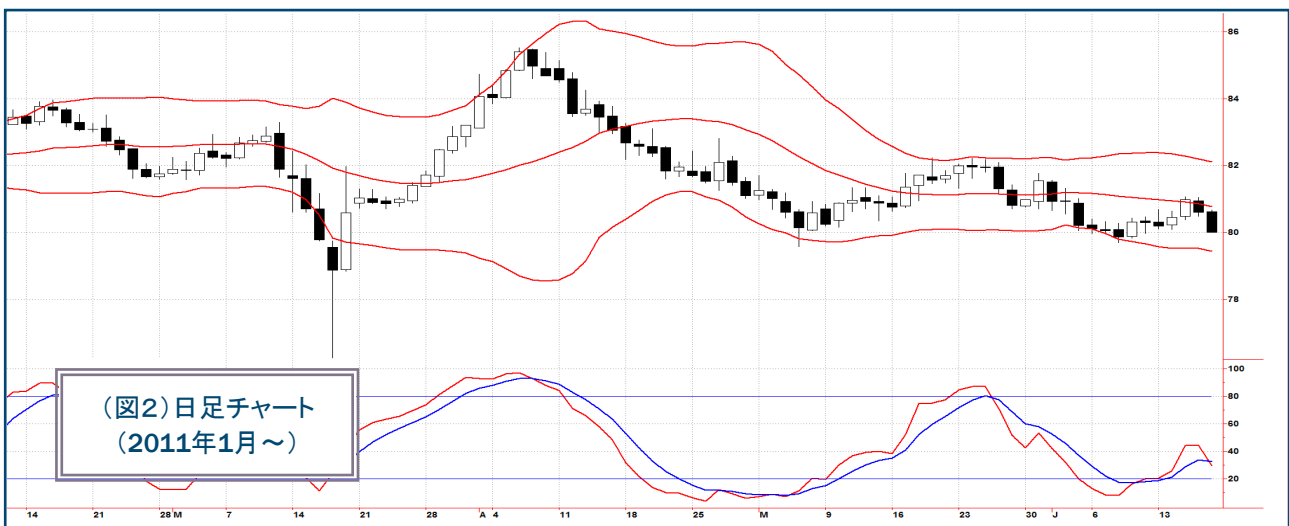
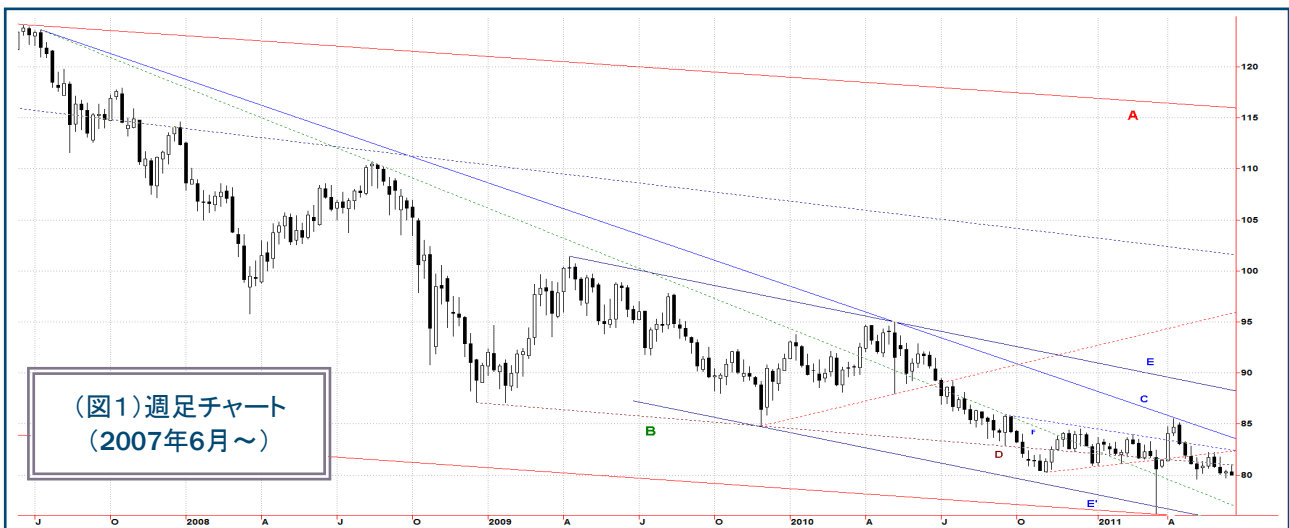
●ドル/円 6/17週足引値:80.00円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値81.06円～安値80.00円と1円06銭の狭い値幅の一週間となった。

週末引値80.00円は、20日線(80.77円、6/17)、40日線(80.95円、6/17)、60日線(81.76円、6/17)、200日線(82.35円、6/17)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(6/17時点)は上限:82.10円～下限:79.43円であり、バンドの上限、下限ともにやや下向きになってきている。

週足チャート(図1):先週は上ヒゲの出した陰線となった。安値引けとなっていることから、今週の下げ余地が感じられるところである。

日足チャート(図2):先週は上値トライを見たが、中途半端なところで折り返しの下落となった。上値が相当重い印象がぬぐいきれず、先週木曜～金曜の反転下落の仕方からすると、まだ下げ余地があるのではないかと推察する。5日線(80.44円、6/17時点)が上向きから下向きに反転しつつあるのに注意したい。79.50円を割り込んだ際、78.50円をも視野に入れたい。もし下値トライが失敗するようであれば反転上昇と考えるが、さほど上昇は大きくならないと思われる。78.50～81.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 6/13~17の主な推移



6/14 Tuesday	加第1四半期設備稼働率が79.0%と予想(77.2%)を上回った事に加え、米5月小売売上高が予想ほどの落ち込みとならなかった事を好感してNYダウ平均先物が上昇すると、カナダ/円は6月3日以来の83円台を回復。さらにその後も、原油先物価格の上昇やフラハティ加財務相が「カナダの金利は上昇するだろう」と発言した事を手掛かりに83.23円まで上値を伸ばした。
6/15 Wednesday	米5月消費者物価指数の食品とエネルギーを除いたコア指数が前月比+0.3%と2008年7月以来の高い伸びを示した事を受けてドル/円が81円台に上昇すると、カナダ/円もつれ高となり、83.42円の高値を付けた。(②)しかし、同時に発表された米6月NY連銀製造業景気指数が大幅に悪化した事や、ユーロ圏のギリシャ支援合意をめぐる不透明感からNYダウ平均株価が一時200ドルを越える下落となると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は82.23円まで下落した。
6/16 Thursday	オランダ中銀のウェリンク総裁が「欧州救済基金を2倍にする必要があるかもしれない」などと述べた事を受けて、ギリシャをはじめとする欧州債務問題への懸念からリスク回避ムードが拡がりアジア・欧州市場にかけて株安が進んだ。ユーロ/円の大幅下落につれて、カナダ/円は81.51円まで下落した。(③)
6/17 Friday	ベルギー中銀のクーン総裁が「ギリシャが2013-14年までに財政黒字を達成できなければ、全ての救済基金を底なしの穴につぎ込む事になる」などと発言した事を受けて、ユーロ安が進行。欧州株の軟調な寄付きや原油先物価格の下落を背景にリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は81.45円の安値を付けた。(④)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は81.45円～83.42円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.5%の下落(カナダドル・円高)となった。また、カナダドル相場と連動性が高い原油相場が先物市場で5.9%の大幅下落となったものの、カナダ/円は直近の安値である81.20円(6/6)を下抜けることなく、81円台では底堅さも見られた。カナダ中銀(BOC)の早期利上げ期待が、カナダドルの下値を支えている状況だ。今週、カナダで発表される重要経済指標は21日(火)の4月小売売上高のみとなり、早期利上げ観測を後押しするにはやや力不足と言え、カナダ/円相場は、主要国の株価や資源価格の動向を睨んでの値動きが続きそうだ。また、今週は21-22日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が行われる。カナダ/円相場は、ドル/円相場との連動性も高く、FOMC声明とその後のバーナンキ議長の発言内容が注目される。(神田)

(予想レンジ: 80.80-83.50円)

テクニカル分析



●カナダ/円 6/17週足引値: 81.63円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/6/17安値)から94.45円(2010/4/26高値)へと26/17円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/8/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は20日線(82.67円、6/17)、200日線(83.01円、6/17)や60日線(84.57円、6/17)を下回ってきている。ボリンジャーバンドは6/17現在、上限84.27円～下限81.07円であり、バンドの上限、下限ともに下落しており、現在のカナダ/円の動きが下落トレンドと思わせるものがある。4/08に直近高値の89.49円を見てからゆるやかに下落の流れとなって進行している。先週は60日線がしっかり上値抵抗線となった。下値はボリンジャーバンドの下限に近付いてきている。このパターンは上値が重い中、ややもすると下値方向への力がかかりやすいと見られる。今後、本格的な81円や80円割れを警戒するところだが、ゆっくりなのか、速いのが気になるところ。上値ポイントは①82.67円(20日線、6/17段階)、②84.50円(5/31高値)、③84.57円(60日線、6/17段階)であり、下値ポイントは①81.00円(キリのいいところ)、②80.00円である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/20~24)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/20 (月)	08:50		(日) 5月通関ベース貿易収支	-4648億円	-7102億円
	14:00		(日) 4月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.8	—
			(日) 4月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	96.4	—
	15:00		(独) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.2%
	17:00		(ユーロ圏) 4月経常収支	-47億EUR	—
6/21 (火)	10:30	◎	(豪) RBA議事録	—	—
	17:00		(南ア) 第1四半期経常収支	-170億ZAR	—
	18:00	◎	(独) 6月ZEW景況感調査	3.1	-5.0
			(ユーロ圏) 6月ZEW景況感調査	13.6	—
	21:30	○	(加) 4月小売売上高 [前月比]	±0.0%	+0.7%
	21:30		(加) 5月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	23:00	○	(米) 5月中古住宅販売件数	505万件	485万件
			(米) 5月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%	-4.0%
6/22 (水)	07:45		(NZ) 第1四半期経常収支	-35.20億NZD	—
	17:00		(南ア) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	23:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・速報	-9.8	-10.0
	23:00		(米) 4月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	-0.2%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
6/23 (木)	15:00		(スイス) 5月貿易収支	+14.4億CHF	—
	21:30	◎	(米) 6/18までの週の新規失業保険申請件数	41.4万件	—
		○	(米) 5月新築住宅販売件数	32.3万件	31.0万件
	23:00		(米) 5月新築住宅販売件数 [前月比]	+7.3%	-4.0%
6/24 (金)	17:00	◎	(独) 6月IFO景況指数	114.2	113.7
	21:30	○	(米) 5月耐久財受注 [前月比]	-3.6%	+1.6%
		○	(米) 5月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-1.6%	+1.0%
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・確報値 [前期比年率]	+1.8%	+2.0%
21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・確報値 [前期比]	+2.2%	+2.2%	

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com